

2017 年度前期

中央大学ライティング・ラボ活動報告書



抄録

2017 年度前期のライティング・ラボは、2013 年度の全学対応以来の大きな転換点を迎えました。より広い部屋への施設移転、インターネット予約の開始という、ラボ開設以来の大きな目標が実現されました。また、チューター増員によって常時 2 ラインを確保しつつも、実施セッション数は昨年度同時期の約 1.7 倍となり、稼働率 61.6%（昨年度 48.5%）という高い数値を維持しました。

昨年度後期から継続している稼働率 60%というラインは、現在の需要に対して、ラボの施設・人員が適正規模であることを表しています。しかし学内にはより大きな潜在的需要が存在しており、ピーク時には予約が取りづらい状況が続き、利用者からは開室日・時間増を求める声が複数寄せられています。特定教員との協力関係も拡大しつつあるものの、現状以上の対応を行うことは困難であり、長期的な運営体制の拡充が求められているといえます。

本報告書では、2017 年度前期におけるライティング・ラボの活動状況を記載します。

I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動、III では来学期以降への所見を報告します。

I 開室状況と利用実績

I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間 2017年4月10日から2017年7月27日までの月曜・火曜・水曜・木曜

開室日数 60日

設置セッション数 703コマ¹

スーパーバイザー (SV) : 中野玲子 アソシエイト・スーパーバイザー (ASV) : 阪口毅

チューター数 10名

I-2 受付方針 (2017年度前期同様)

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類(対象文章かそれ以外か)に基づく。

1. 対象文章

授業で課題となったレポート及び発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿(スライド用・口頭用)、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策部プロジェクト活動報告書

2. 空きがある場合につき、受け付ける文章 (予約不可)

奨学金応募書類に含まれる志望動機書

留学志望書

公務員試験練習課題

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

外国語/日本語翻訳(授業の課題のみ)

3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章(キャリアセンターへ案内)

メールや手紙の文章

公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

I-3 実施セッション数と稼働率

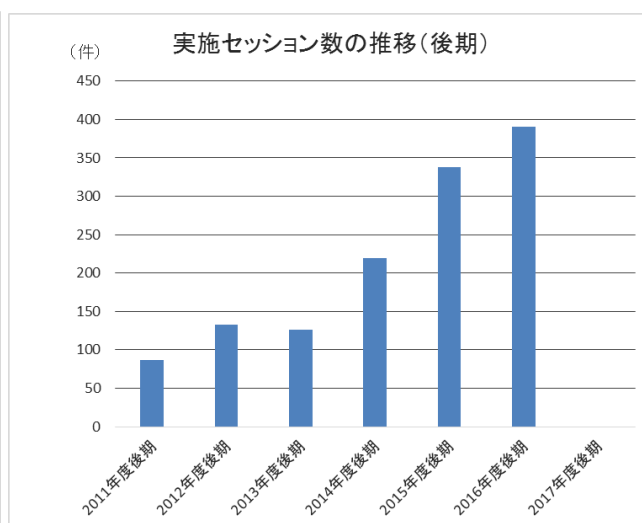
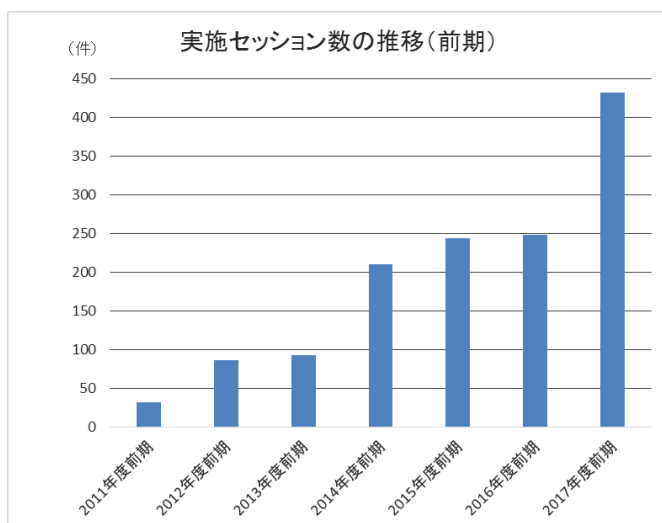
実施セッション数(延長を含む): 433コマ(前年比175%)

セッション稼働率: 61.6%(前年度48.5%)

¹ 稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。

表：月別セッション設置数と稼働数

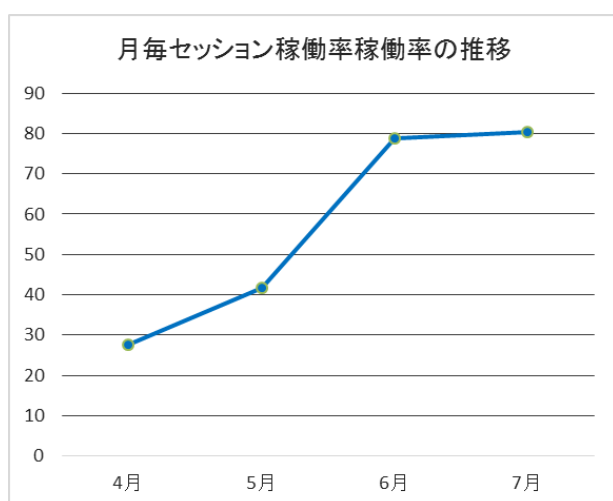
	設置数	稼働数	稼働率(%)
4月	123	34	27.6
5月	165	69	41.8
6月	197	155	78.7
7月	218	175	80.3
合計	703	433	61.6



注) 2013年度より日本人学部生の利用が開始された。

【所見】

利用学生数の大幅な増加となった。前期の利用者数は過去3年間ほぼ一定数で安定している状況だったが、2014年度以来(前年度より全学対象)の2度目のブレイクスルーとなった。ライティング・ラボの存在が着実に定着し、さらなる事業拡大にむけた新たな局面を迎えていると考えられる。



【所見】

ピーク月には稼働率 80 パーセントを超え、予約枠もいっぱいとなり、チューターはほぼ空きコマなしで勤務する状況となった。



【所見】

2016 年度後期に急上昇した稼働率が、今年度前期にも維持された。「出張宣伝」をきっかけとして構築された特定の教員との協力関係が持続し、高い需要を支えたといえる。平均稼働率 60%は、繁忙期には 80～100%となることを踏まえると、現在のラボの人員が適正規模であることを示している。これ以上の需要増加が見込まれる場合には、**ASV (ないし ST) やチューターの増員、週 5 日開室などの制度改定が必要**となる。利用者からも開室日・時間の拡大を求める声が多く寄せられている。

I-4 利用学生の内訳

*利用学生数²

2017 年度前期合計 433 名 (前年比 174.6%)³

大学院日本人学生	12 名 (前年度 7 名)
大学院留学生	91 名 (49 名)
学部日本人学生	287 名 (118 名)
学部留学生	43 名 (17 名)

【所見】

留学生と学部日本人学生の顕著な増加が見られる。学部日本人学生に関しては、1 年生が授業・演習のレポート課題を持ち込むケースが突出して多くみられた。一方、前年度は伸び悩んでいた留学生の利用が復

² 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

³ 教授会での教員への広報、および「出張宣伝」による学生への広報活動の成果と思われる。

活している。アカデミック・ライティングの観点からの検討はもちろん、丁寧に「日本語チェック」しても
 らえるという評価が得られたのではないだろうか。

*利用学生の所属

法学研究科	8名
経済学研究科	1名
商学研究科	2名
文学研究科	87名
総合政策研究科	5名
公共政策研究科	0名
法学部	113名 (うち法学部通信教育課程 4名)
経済学部	123名
商学部	29名
文学部	62名
総合政策学部	3名
公共政策学部	0名

*利用学生の学年

学部 1 年	227名
学部 2 年	29名
学部 3 年	30名
学部 4 年	36名
学部 5 年以上	8名
博士課程前期／修士 1 年	9名
博士課程前期／修士 2 年	60名
博士課程前期／修士 2 年以上	0名
博士課程後期 1 年	22名
博士課程後期 2 年	0名
博士課程後期 3 年	0名
博士課程後期 4 年以上	12名
研究生	0名
科目等履修生	0名

*利用学生の母語

日本語	299名
中国語	78名

アラビア語	25 名
韓国語	15 名
フランス語	9 名
インドネシア語	6 名
ミャンマー語	1 名

I-5 相談文章の種類

卒業論文	10 件
修士論文	41 件
博士論文	0 件
授業のレポート	270 件
ゼミ論文	2 件
投稿論文	32 件
研究計画書（入試用）	26 件
研究計画書（入試用以外）	4 件
ゼミ及びプレゼンのレジュメ	18 件
発表用口頭原稿	3 件
その他	27 件

※その他の内訳

奨学金応募書類、翻訳課題、スピーチ原稿、ゼミ選考資料

I-6 利用学生からの評価——アンケート調査より

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケート記入をしてもらった。アンケート回収数は 341 通。各質問項目と結果は以下の通りである。

1. セッションは有益だったか⁴

有益ではなかった	4 件 ⁵
あまり有益ではなかった	3 件
有益だった	76 件
とても有益だった	258 件

⁴ 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「有益だった」「とても有益だった」の 4 段階評価。

⁵ 「1. 有益ではなかった」の 5 件は、コメント欄に有益だったと分類できる記載（「時間を長引きしていただくともっとよい」等）があるため、「4. とても有益だった」の記入ミスと考えられる。

2. セッションでできたこと⁶

日本人学生

・文章構成が検討できた	70件
・論点が整理できた	48件
・一緒に検討できた。アドバイスがもらえた。	33件
・レポートの書き方について相談できた	29件
・引用の仕方・参考文献の記載方法を確認できた	22件
・ブレインストーミングができた	14件
・問題発見ができた。心のケアができた。	6件

留学生

・日本語文法が検討できた	37件
・論点が整理できた	16件
・アドバイスをもらえた	8件
・文章構成が検討できた	5件
・問いと主張を検討できた	4件
・語句を明確化できた	3件
・問題発見ができた	1件

【所見】

- (1) 日本人学生は学部1年生の新規利用が多く、「書きたいこと」「主張したいこと」を持っているものの、どのようにレポートで表現していいかわからないというセッションが多かった。また、ラボの存在意義として、「レポート執筆の支援」だけでなく、「**精神面のサポート**」という点も見られた。
- (2) 留学生にはニーズとしては日本語文法が9割以上を占める。しかしながら、語句の使い方や接続詞について検討をする過程で、レポートの構成や論点についての問題を発見し、検討するというセッションも見られる。実質的にはアカデミック・ライティングの観点からのセッションが可能となっていると考えられる。

3. セッションまたはラボに対する要望など 【日本人学生・留学生あわせて】

○セッション増設希望 9件

(金曜日開室希望)

- ・金曜日にも開けてほしい！他6件

(夏休み開室希望)

- ・夏休みに（一日だけでも！）開いているとありがたいです。

(1限開室希望)

⁶ 「セッションでできたこと」をコード化して分類。複数回答可。上位回答を中心に記載する。

- ・1限の時間から利用できるようにしてもらいたいです。(9:20～)
(昼休み開室希望)
- ・昼休みにやってほしい!

【所見】2018年度以降、**週5日開室(金曜日開室)**を検討したい。夏季開室に関しては、例年の利用数が少ないので2017年度は行っていない。時期を含めて再検討の余地あり。

○ラボの環境 3件

- ・2年ほど前に入口前まで伺ったことがあるが、入りにくい雰囲気です断念したことがあるが、今回は入りやすくなっていた。
- ・とても利用しやすい空間だと思います。
- ・2号館には、足を運ぶ機会がないので、入りづらいです。

【所見】

移転により、初回利用者にとって入りづらさが解消したと考えられる。

○広報 5件

- ・こんなに意識や文章が変わることに驚いています。学部生時代には、提出ギリギリにレポートなどを書いていたので、もっと早く作って、見ていただけたらと後悔しています。もっともっとアピールして下さい! 私みたいな人が出ないように・・・!
- ・気軽に来れることをアピールする
- ・空いてる時間帯をネットにアップロードしたほうが良いと思います。
- ・宣伝拡大したほうがよいと思う。昨日までチューターを存在していることを気づいた。
- ・「セッションでどこに着目したいか」が構想段かいで話すのが難しいので、何度かドアの前でやめて帰っていたが、全然問題ないと分かって良かったです。こんな感じで来ても大丈夫!と具体例があると入りやすいかと思います。

【所見】

- (1) ポスター掲示や出張宣伝でラボの広報は一定の効果があったので、継続的に実施する。
- (2) 開室状況についてはホームページ上で確認できるようになっているので、ラボ前の掲示板などを活用し周知する。
- (3) 同様に、掲示板およびホームページにて、**ラボの具体的な使い方、セッションの様子**などが分かるようにする。

II セッション以外の活動

II-1 ライティング・ラボ移転

今学期より2号館2541号室に移転。入り口に受付を置いたこと、スペースの拡大、窓からの採光等で、余裕のある明るいスペースとなり、学生に「前より入りやすい」という印象を与えているようである。

チューターにとっても、作業スペースが確保でき、以前より作業しやすい環境となった。また、グループセッション専用の机ができ、グループセッションをしても空間的余裕が生まれたこと、ミーティングや研修がラボ内で開催可能となったことで、使いやすいスペースもなった。

II-2 ネット予約の開始

今学期より、ラボHP上からネット予約できるよう新システムを構築した。大学院棟とは普段なじみのない学部1、2年生がネットを通して予約できるようになったことで、ラボへの心理的障壁が低くなったと思われる。ネット予約開始により、今学期のセッション数の伸びにつながった。

ネット予約月別数

4月	6件
5月	25件
6月	83件
7月	57件
合計	171件

II-3 教員向け広報活動

「授業との連携を深める」という目的のもと、教員向けパンフレットの作成・授業への出張ガイダンス（II-4-1に詳細有）の実施により、教員向け広報活動を強化した。

チューターが授業課題に沿ったセッションを実施できるよう、授業の課題については、ラボのボードに張り出し、セッション前にチューターが確認した上でセッションを実施できるよう工夫した。ラボに期待する支援についても、チューターミーティングの際に検討するなどして、チューター間での情報共有に努めた。

II-4 学生向け広報活動

II-4-1 授業への出張ガイダンス

2016年前期から引き続いての試み。全教員へ向け、チラシとメールで出張宣伝の実施を告知。宣伝はチューターが担当した。また、今期より、出張ガイダンスに加え、ラボ見学ツ

アームも実施した。結果、新規来室のきっかけとして、「ガイダンスを聞いて」が大きく伸びている。来学期以降は、ラボの利用方法をより分かりやすく説明し、ラボへの心理的障壁を減らす工夫をしていきたい。

*出張ガイダンス実施件数	全16件
*ラボ見学ツアー実施件数	全2件
*出張ガイダンス+ラボ見学ツアー実施件数	全4件

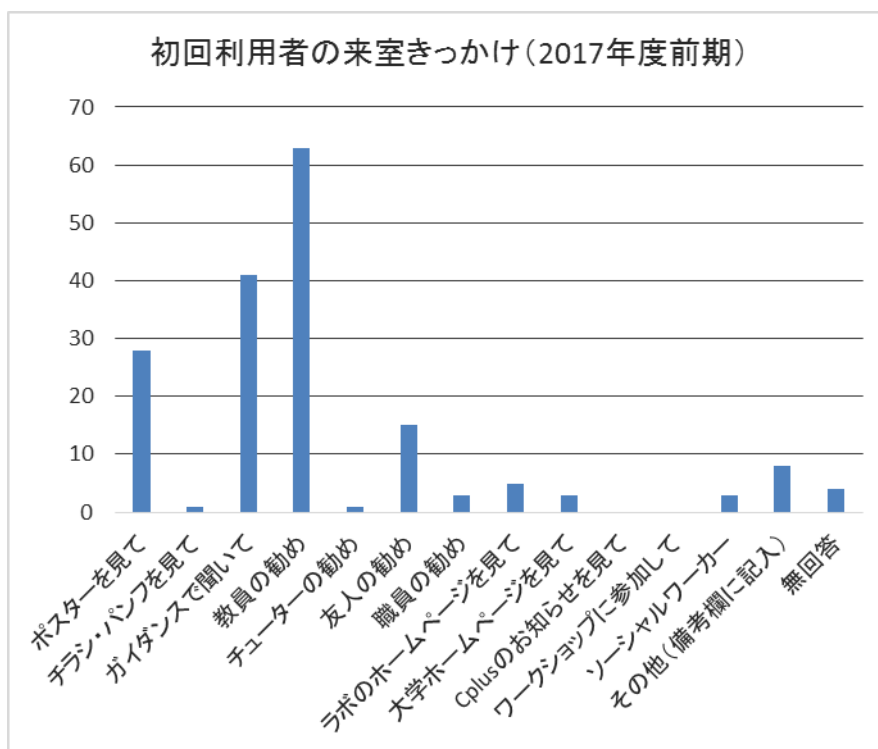
II-4-2 新入生ガイダンスにてラボの宣伝実施

学部・院の新入生ガイダンスにて、ラボの宣伝を実施した。

*新入生ガイダンス実施学部・研究科

文学部・経済学部・総合政策学部・文学研究科・経済研究科・商学研究科・総合政策研究科・商学部ベーシック演習ガイダンス・留学生（学部）

*宣伝効果



【所見】

今後も継続して、教員からの依頼に基づき授業を訪問し、ラボの理念・指導方針・利用方法を宣伝する。ラボの利用方法は、レポート執筆プロセス等を見せ、ラボで「できること」を具体的に提案するなど、今後

も工夫をしていきたい。今後は、特に演習科目への宣伝を強化し、学部1、2年生のレポート執筆から卒論執筆まで長期的なラボ使用へと結びつけ、学生の「書く力」の向上へとつなげていきたい。

II-5 研修

II-5-1 チューターミーティングおよび研修の実施

今学期のチューター研修は、(1) ワークショップ準備を通して、セッションスキルを向上する、(2) チューターが自主的に研修内容を決定し実施するという2つを柱に計10回実施した。

II-5-2 ワークショップ開催

学部生へのラボの宣伝を目的としたワークショップを実施。

*テーマ

「レポートと感想文の違いを学ぶ」

*実施日、場所、参加人数⁷

6月26日(月) 12:40~13:10	3号館 3156 教室	参加人数 42人
6月29日(木) 同上	6号館 6104 教室	参加人数 35人

2017年度6月開催ワークショップ アンケート集計表

回答者所属

所属	人数	2016年
法学部	27	8
経済学部	9	3
商学部	19	2
文学部	19	8
総合政策学部	2	0
法学部通信教育課程	0	0
法学研究科	1	0
経済学研究科	0	0
商学研究科	0	0
文学研究科	0	3
総合／公共政策研究科	0	0
その他	0	0
合計	77	24

回答者学年

学年	人数	2016年
学部1年	57	7
学部2年	11	4
学部3年	6	9
学部4年	1	1
修士1年	0	3
修士2年	0	0
博士1年	1	0
博士2年	0	0
博士3年	0	0
博士4年以上	0	0
その他	1	0
合計	77	24

何で知ったか(複数回答)

媒体	人数	2016年
ポスター	37	11
チラシ	8	3
ラボor大学のホームページ	3	4
教員の勧め	15	5
友人から聞いて	7	2
Cplus	5	3
チューターから聞いて	0	1
ツイッター	0	0
その他	2	1
合計	77	30

参考になったか(4件法)

	人数	2016年
とても参考になった	23	10
参考になった	54	13
あまり参考にならなかった	0	0
参考にならなかった	0	0
未記入	1	1
合計	78	24

今後ラボを利用してみたいか

	人数	2016年
はい	63	22
いいえ	1	0
利用したことがある	7	1
未記入	6	1
合計	77	24

⁷ アンケートの回収数をワークショップ参加人数としてカウント。

【所見】

- (1) セッション稼働率が上がり、チューターの空き時間が少ないため、ワークショップの準備時間を生み出す工夫が必要であった。来年以降は、チューター間の連携、準備時間の確保等、ワークショップを担当するチューターの作業のしやすさを考慮した工夫をしていきたい。
- (2) ワークショップが研修の一環であることを明確化し、目的をはっきりさせた上で行った。また、4月から6月まで十分な準備期間を取ったことで、ワークショップのテーマとなったスキルをチューターが習得し、セッションで応用できるようになった（チューターの振り返りより）。チューター研修としての目的は十分に果たした。

II-5-3 チューターによる自主研修

3年目以降チューター自身が研修テーマを選択し、報告5分、ディスカッション10分程度の持ち時間で実施した。研修テーマは以下の通り。

- 第1回目「学生が出題者の意図に気づいていない場合における効果的な質問とは？」
- 第2回目「法律文献等の収集方法と出典表記の方法」
- 第3回目「中大杉並高校でのセッションについて」
- 第4回目「書き手中心のセッションにするために」

【所見】

SV/ASVが設定した研修テーマではないため、各チューターのセッションにおける課題や専門内容により密着した内容となり、バラエティーに富んだ研修内容になった。議論も活発に行われ、セッションスキル上達という面だけではなく、ラボの理念の確認などさまざまな面で効果が生じた。今後、SV/ASVが設定する定型的な研修に加えて、3年目以降チューターによる自主研修時間を拡大し、問題発見型研修を実施していきたい。

II-6 中央大学杉並高等学校へのチューター派遣

*開室期間とチューター数

開室期間 2017年6月1日から6月23日までの木曜・金曜

開室日数 8日

チューター数 2名

*利用実績

設置セッション数 48セッション

セッション実施数 41セッション

セッション稼働率 85.42%

＊高校ワークショップ実施

実施日時： 5月18日（木） 19日（金） 15：45～

場所： 特2教室

申込者： 18日（木） 13人⁸

19日（金） 21人

【所見】

- (1) 今後は、高校ラボの知見を、大学ラボ内で共有し、持続性のある派遣につなげていく必要がある。
- (2) 昨年度中杉ラボの利用者で、大学入学後にラボの利用をした学生が数名いた（利用動機が、中杉ラボでの利用となっている学生）。中杉での学びをアカデミック・ライティングに生かしている学生がいる。高校ラボを利用した学生に大学ラボの利用を促すなど、大学入学後のラボ利用につながる工夫をしていきたい。

Ⅲ 来期に向けた所見

Ⅲ-1 教員との連携について

今期は出張宣伝の成果もあり、教員からラボの利用推奨があり、利用者の増加につながった。特に、学部1年生への利用推奨は、ラボの長期的利用にもつながり、学生の「書く力」の向上に繋がる。今後も教員に向けて様々な方法で広報を継続し、ラボ利用推奨に繋げたい。

Ⅲ-2 開室曜日と時間について

学生からの要望が多い週5日開室（金曜日開室）を、2018年度以降できるだけ早い時期に実施する必要がある。6、7月の繁忙期に予約がとれない学生も出たため、全学生への機会提供という側面からも週5日の開室を実現したい。

夏休み期間の開室は今年度は見送ったが、開室希望の声も出ているため来年度は慎重に検討したい。

以上

2017年9月25日

スーパーバイザー 中野玲子

アソシエイト・スーパーバイザー 阪口 毅

⁸ 当日、飛び入り参加が両日とも1～2名有。